



一方Bは、当初A車の後方で第2車線を時速約70kmで走行していました。A車が左ウィンカーをだして進路変更してきたので第1車線に回避したのですが、速度を落とさなかったことで、A車がさらに第1車線に進入してきたため、避ける間もなく衝突してしまいました。

Bは、A車がまさか2車線分を一気に横切るなどという行動までは想定できませんでした。Bは制限速度を守ることはもちろん、Aがさらに車線変更してくるかもしれないと防衛運転を心がけていれば、衝突を避けられた可能性が大いにあったと思われます。普段の運転から起こりうる最悪の状況をイメージし、それらに対処できる余裕を持った運転を心がけることで予測できない事故にも対応できる可能性が高まります。